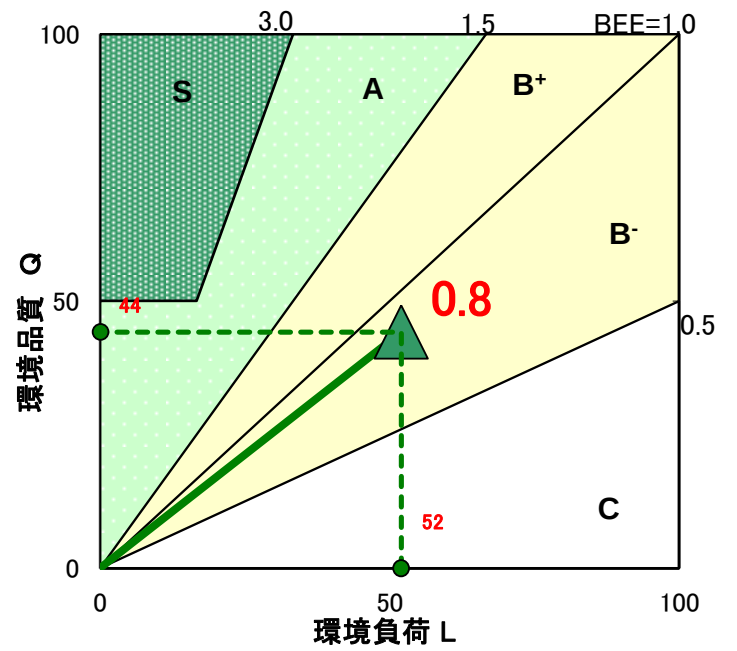


CASBEE®

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	熊本寮(仮称)新築	階数	地上7F	
建設地	熊本県熊本市南区白藤2丁目71-21	構造	RC造	
用途地域	法22条地域	平均居住人員	176 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年2月 予定	評価の実施日	2015年1月30日	
敷地面積	2,080 m ²	作成者	柴田 由美	
建築面積	983 m ²	確認日	2015年2月6日	
延床面積	4,276 m ²	確認者	平原 公孝	

1 CASBEE評価結果				
■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)				
		BEE = 0.8		
		■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$		
		■ 環境効率評価基準		
		■ ライフサイクルCO ₂ 排出性能評価基準		
		排出率		
		100%		
		判定値 (排出率)		
		30%以下		
		30%超60%以下		
		60%超80%以下		
		80%超100%以下		
		100%超		

2 熊本県重点評価結果				
■ 重点事項総合評価				評価点
				68
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進		評価点	■ 熊本県重点評価基準	
		70.1	判定値 (評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現		61.2	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全		75.0	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現		64.5	60点以上80点未満	
			40点以上60点未満	
			40点未満	

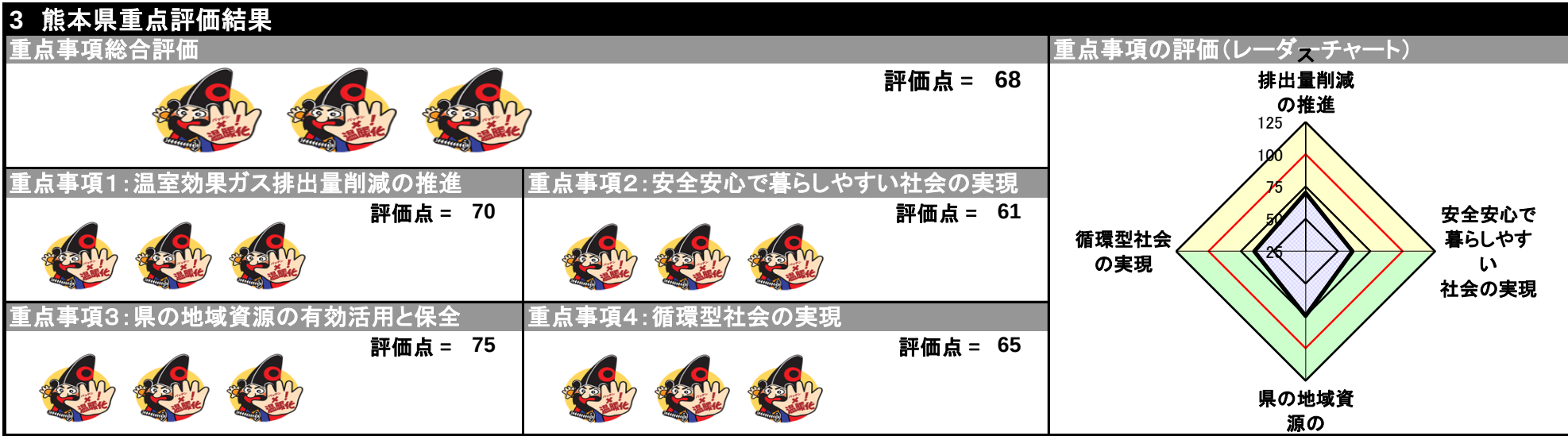
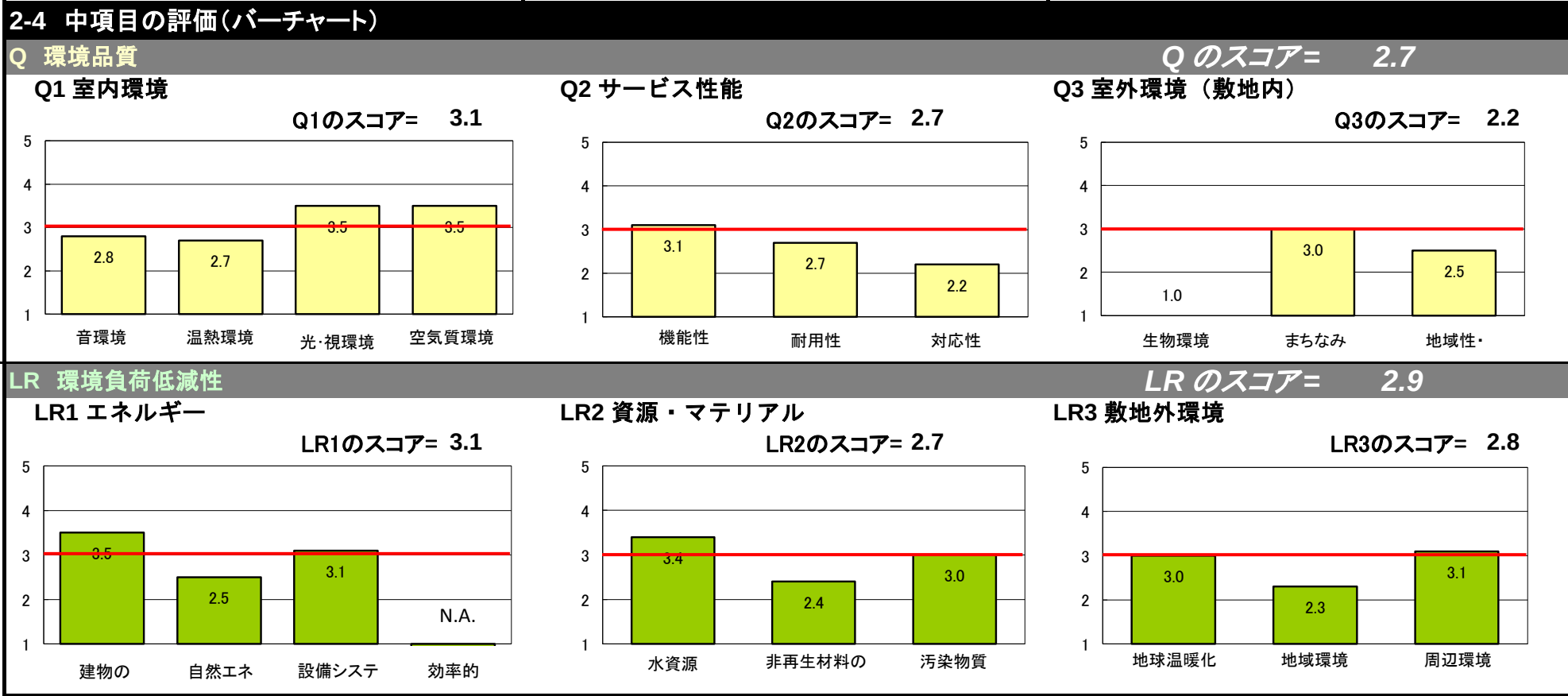
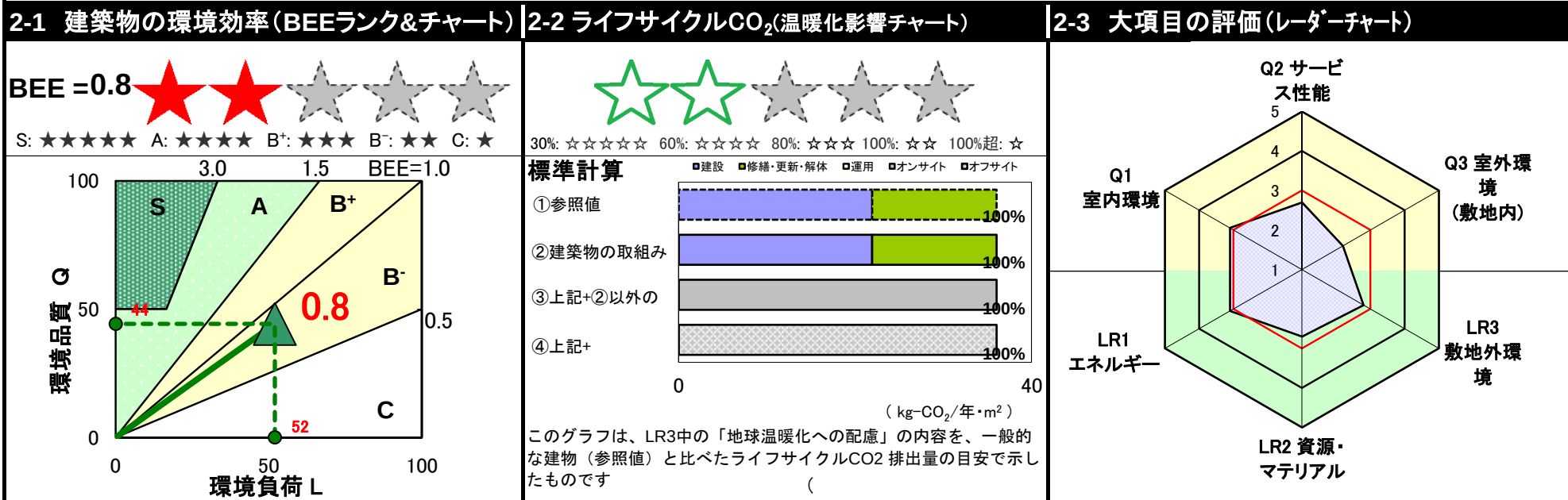
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築《簡易版》2010年追補版Ver.2 (BPIBEI対応) ■使用評価ソフト：CASBEE-Ncb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊本寮(仮称)新築	階数	地上7F
建設地	熊本県熊本市南区白藤2丁目71-21	構造	RC造
用途地域	法22条地域	平均居住人員	176 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年2月 予定	評価の実施日	2015年1月30日
敷地面積	2,080 m ²	作成者	柴田 由美
建築面積	983 m ²	確認日	2015年2月6日
延床面積	4,276 m ²	確認者	平原 公孝



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補
熊本寮(仮称)新築

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPIBEI対応)
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei\

スコアシート		実施設計段階											
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体					
				評価点	重み係数	評価点	重み係数						
Q 建築物の環境品質									2.7				
Q1 室内環境					0.40				3.1				
1 音環境				2.0	0.15	3.1	1.00		2.8				
1.1 騒音				3.0	0.50	3.0	0.50						
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	0.50						
2 設備騒音対策				-	-	3.0	0.50						
1.2 遮音				1.0	0.50	3.3	0.50						
1 開口部遮音性能				1.0	1.00	3.0	0.30						
2 界壁遮音性能				-	-	4.0	0.30						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20						
1.3 吸音				-	-	-	-						
2 温熱環境						1.9	0.35			3.0	1.00		2.7
2.1 室温制御				1.7	0.50	3.0	1.00						
1 室温				1.0	0.63	-	-						
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-						
3 外皮性能				3.0	0.38	3.0	1.00						
4 ゾーン別制御性				-	-	-	-						
5 温度・湿度制御				-	-	-	-						
6 個別制御				-	-	-	-						
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-						
8 監視システム				-	-	-	-						
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-						
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-						
3 光・視環境						3.2	0.25			3.7	1.00		3.5
3.1 昼光利用				居室が広さの割には十分な開口部を設置している		4.2	0.30			3.4	0.50		
1 昼光率						5.0	0.60			5.0	0.50		
2 方位別開口						-	-			1.0	0.30		
3 昼光利用設備		3.0	0.40			3.0	0.20						
3.2 グレア対策		3.0	0.30			4.0	0.50						
1 照明器具のグレア		-	-			-	-						
2 昼光制御		3.0	1.00			4.0	1.00						
3 映り込み対策		-	-			-	-						
3.3 照度		2.0	0.15			-	-						
3.4 照明制御		3.0	0.25			-	-						
4 空気質環境				3.2	0.25	3.6	1.00		3.5				
4.1 発生源対策		全てF☆☆☆☆建材を採用		4.0	0.60	4.0	0.63						
1 化学汚染物質				4.0	1.00	4.0	1.00						
2 アスベスト対策				-	-	-	-						
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-						
4 レジオネラ対策				-	-	-	-						
4.2 換気				2.0	0.40	3.0	0.38						
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33						
2 自然換気性能				3.0	-	5.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	1.0	0.33						
4 給気計画				-	-	-	-						
4.3 運用管理				-	-	-	-						
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-						
2 喫煙の制御				-	-	-	-						
Q2 サービス性能						-	0.30			-	-		2.7
1 機能性						3.6	0.40			3.0	1.00		3.1
1.1 機能性・使いやすさ		内装計画の事前検証を実施している		3.0	0.40	3.0	0.60						
1 広さ・収納性				-	-	-	-						
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	1.00						
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-						
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	3.0	0.40						
1 広さ感・景観				-	-	3.0	0.50						
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-						
3 内装計画				5.0	1.00	3.0	0.50						
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-						
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-						
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-								
3 衛生管理業務		-	-	-	-								
2 耐用性・信頼性				2.7	0.31	-	-		2.7				
2.1 耐震・免震		給排水・通気管は全て「B」以上を採用		3.0	0.48	-	-						
1 耐震性				3.0	0.80	-	-						
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-						
2.2 部品・部材の耐用年数				2.6	0.33	-	-						
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.23	-	-						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.09	-	-						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				4.0	0.15	-	-						
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.23	-	-						

	2.3 適切な更新			-	-	-	-	
	2.4 信頼性			2.4	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	光・メタルケーブルの設置、浸水の危険性なし(地上設置)	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.0	1.00	2.2
3.1 空間のゆとり				-	-	1.0	0.50	
1			階高のゆとり	-	-	1.0	0.60	
2			空間の形状・自由さ	-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-	
1			空調配管の更新性	3.0	0.17	-	-	
2			給排水管の更新性	3.0	0.17	-	-	
3			電気配線の更新性	3.0	0.11	-	-	
4			通信配線の更新性	3.0	0.11	-	-	
5			設備機器の更新性	3.0	0.22	-	-	
6			バックアップスペースの確保	3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.1
1 建物の熱負荷抑制			二重サッシの採用	3.5	0.40	-	-	3.5
2 自然エネルギー利用				2.5	0.20	-	-	2.5
2.1 自然エネルギーの直接利用				2.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化			LED照明の採用	3.1	0.40	-	-	3.1
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			#VALUE!	3.5		-	-	
集合住宅の評価				3.1		-	-	
4 効率的運用				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			節水型器具を使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00	-	-	
2			雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.4	0.63	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68	-	-	
1			消火剤	4.0	0.50	-	-	
2			発泡剤(断熱材等)	2.0	0.50	-	-	
3			冷媒	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮				2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.2	0.25	-	-	
1			雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2			污水处理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3			交通負荷抑制	2.0	0.25	-	-	
4			廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1			騒音	3.0	1.00	-	-	
2			振動	-	-	-	-	
3			悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.3	0.40	-	-	
1			風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2			砂塵の抑制	1.0	-	-	-	
3			日照阻害の抑制	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			日影規制(5/3h)に対し、ワンランク上(4/2.5h)の基準を満たす。	3.0	0.20	-	-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・周辺環境と調和し、圧迫感を与えないようなデザイン・色彩計画とし、西側の住宅に配慮して7mセットバックさせた
- ・敷地東側の前面道路沿いに植栽帯を設け、通り沿いの景観に配慮した計画とする。

Q1 室内環境

- ・次世代省エネルギー3等級の断熱性能を確保する。
- ・内装材の全てをF☆☆☆☆建材とする。

Q2 サービス性能

- ・排水縦管には、適切な位置に掃除口を設け、メンテナンス性を考慮する。
- ・配管（さや管ヘッダー方式）、配線（CD管）など、更新性に優れた材料や工法を採用する。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・周辺に配慮した建物高さ、配置計画とする。
- ・敷地東側の前面道路沿いに植栽帯を設け、通り沿いの景観に配慮した計画とする。

LR1 エネルギー

- ・照明器具はLED照明を採用し、エネルギーの高効率化を図る。

LR2 資源・マテリアル

- ・節水型機器の採用により、水資源の保全に努めている。

LR3 敷地外環境

- ・近隣住民に圧迫感を与えないように、建物の高さを抑え、透明感や軽快感のあるガラス手摺を採用する。
- ・透水性アスファルト舗装や吸込槽を設け、出来る限り敷地内で雨水排水を処理する。
- ・適切な広さのゴミ置場を設置する。
- ・屋外広告物照明を採用しない。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 熊本寮(仮称)新築

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	68.2
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				70.1	0.40	28.04
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.5	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.1	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.2	0.20	12.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				64.5	0.20	12.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数